

中野区コミュニティ・スクールのモデル校における活動状況について

中野区コミュニティ・スクールは、学校、家庭、地域が協働し、子どもたちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを推進するため、地域住民、保護者等が参画し、学校運営について必要な支援を協議する「地域学校運営協議会」（中学校区単位）と地域人材や学校支援ボランティア等により学校運営について必要な支援を行う「地域学校協働本部」（各小中学校）を設置し、一体的に推進する組織・継続的な仕組みである。

令和5年1月、明和中学校区で中野区コミュニティ・スクールのモデル実施を開始したので、これまでの取組状況を報告する。

1 中野区コミュニティ・スクールについて

中野区では、これまでの学校支援ボランティア制度を発展させ、学校支援体制を組織化した「地域学校協働本部」と、地域が主体的に学校教育のあり方を考える「地域学校運営協議会」の2つの組織を同時に設置する学校を「中野区コミュニティ・スクール」と称している。（別紙参照）

なお、国（法定型）は、学校運営協議会を設置する学校を「コミュニティ・スクール」と称している。

2 導入のメリット

（1）組織的・継続的な体制の構築

校長や教職員の異動があっても、地域学校運営協議会によって地域と組織的な連携・協働体制を継続できる。

（2）当事者意識・役割分担

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者みな当事者意識を持ち、「役割分担を持って連携・協働による取組」ができる。

（3）目標・ビジョンを共有した「協働」活動

地域学校運営協議会や熟議の場を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのように育てていくのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有することができる。

3 モデル校における取組状況

（1）モデル校設置の意義

中野区は、地域・保護者・学校が様々な形で長年連携・協力をしてきている。いままで培ってきたこれらの連携を基盤に中野区に適した「中野区コミュニティ・スクール」を導入するために、それぞれの中学校区における取り組み方によって、「地域とともにある学校づくり」を進める。

（2）第1次 モデル校の実践

①実施地区：明和中学校区

（明和中学校、鷺宮小学校、啓明小学校、西中野小学校、美鳩小学校）

②選定理由・役割

ア 他地区でのコミュニティ・スクール導入経験や実践経験のある学校長がいるため、その経験と知識を生かし、中野区コミュニティ・スクールの構築を進めやすい。

イ 学校数が一番多い明和中学校区をモデル校とすることで、次年度以降の導入拡大に向けて、様々な検証が可能となる。また、学校を核とした新たな地域ネットワークづくりについても検証できる。

ウ 1 小学校以外は再編校であることから、地域・保護者・学校がより相互理解を進め、学校支援を組織的に行うことができるようになることを目指す。

⇒令和6年4月統合の学校があることもあわせて、地域学校運営協議会の設置を先に行う。

③地域学校運営協議会の設置

ア 設置日 令和5年1月23日

イ 委員 13名

(学識経験者、地域関係者、保護者、明和中学校区小・中学校長、東京都立高等学校長、うち、統括地域コーディネーター、地域コーディネーター)

④モデル実施の経過

○ 地域学校運営協議会の開催状況

実施回	実施日	ねらい	活用資料等
プレ会議	令和4年 10月7日 10月17日	○校長、学識経験者、教育委員会による中野区コミュニティ・スクールの方向性の確認 ○地域コーディネーター及び委員の選定	・コミュニティ・スクールに関する国・都・他自治体資料 等
第1回	令和5年 1月23日	○中野区コミュニティ・スクール及び中野区地域学校運営協議会の方向性の確認(※別紙参照) ○委員長及び副委員長の選出 ・委員長 学識経験者 ・副委員長 東京都立高等学校長 保護者 ○各学校の特色や課題についての共有	・中野区教育大綱 ・中野区教育ビジョン(第4次) ・学校要覧
第2回	2月20日	○熟議による「明和中学校区で育てたい子ども像」についての共有及び意見交換	・学校経営方針 ・令和4年度保護者アンケート ・各校における令和4年度全国学力・学習状況調査の結果 ・道徳教育全体計画 ・明和中学校研究構想図(令和4・5年度東京都教育委員会人権尊重教育推進校) ・学校便り
第3回	5月8日	【子ども像】 ・多様性を理解し、互いの立場、考え、良さを認め合うことができる子ども ・学校・家庭・地域・社会の一員として、自分の役割と責任を自覚し、ともに支え合おうと努める子ども	
第4回	7月3日		
第5回	11月20日	○熟議による「各学校における令和5年度の教育活動に関する中間報告」の共有及び意見交換	・各学校の経営計画の中間評価

教育活動についての熟議・評価の結果を次年度の教育課程に反映

第6回 令和6年2月15日(予定)

熟議テーマ:明和中学校区における各学校の令和6年度教育課程及び共通の取組について

(3) 第2次 モデル校

①実施地区:南中野中学校区(南中野中学校、南台小学校、みなみの小学校)

中野中学校区(中野中学校、桃園第二小学校、桃花小学校、平和の森小学校)

②選定理由・役割

ア 第一次 モデル校との地域バランスを考慮した。

イ 両中学校区においては、地域との連携や小中連携が活発である。各小中学校では、学校支援ボランティアや地域人材を活用した取組が進んでいる。

⇒地域学校協働本部の設置を先に行う予定である。地域学校運営協議会の設置を見越して、地域コーディネーターの候補者については、中学校と小学校の両方に関わりのある方を選定していく。

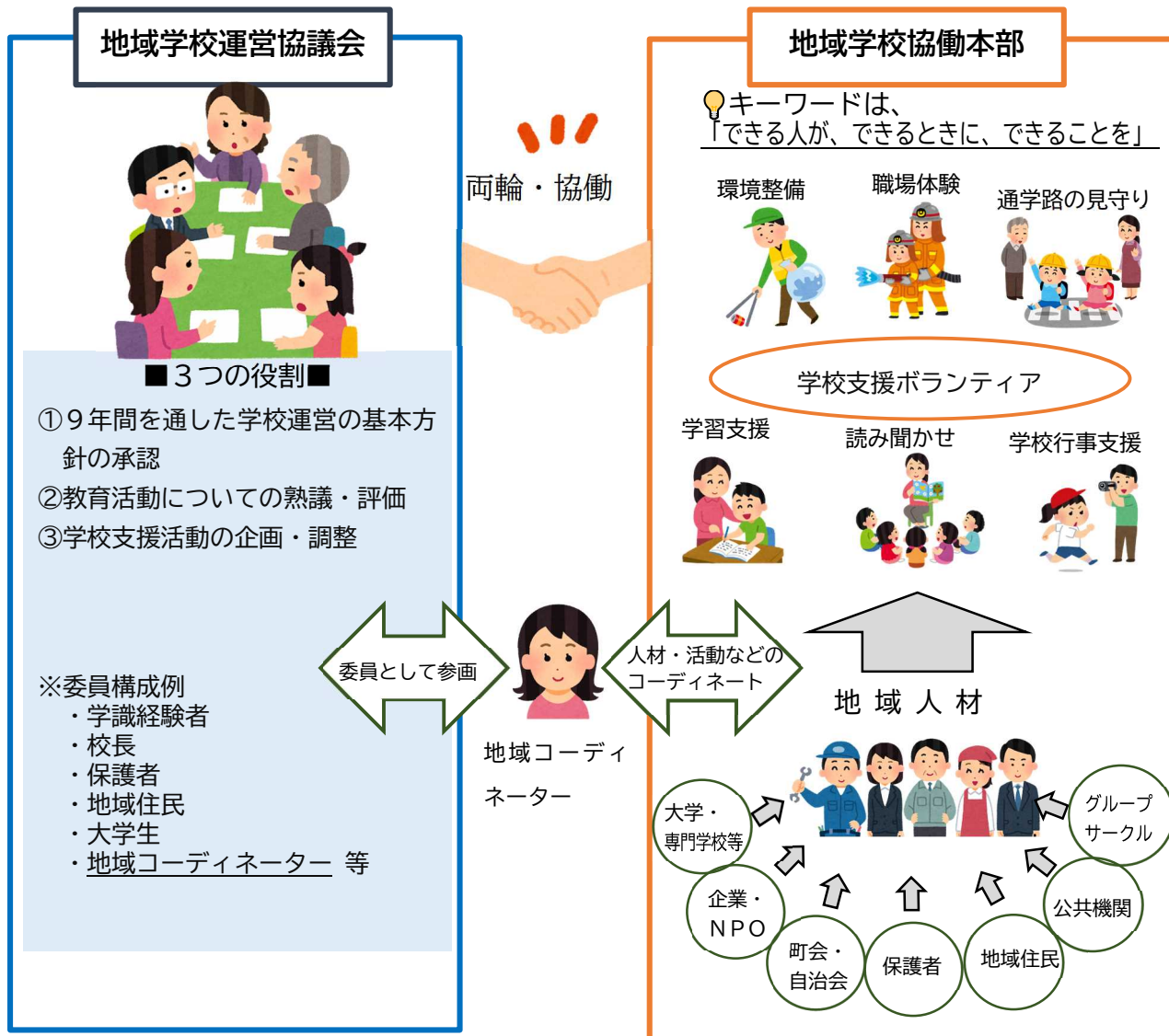
(4) 第3次 モデル校

①実施地区：北中野中学校区（北中野中学校、武蔵台小学校、上鷲宮小学校、かみさぎ幼稚園）
中野東中学校区（中野東中学校、桃園第二小学校、塔山小学校、谷戸小学校、白桜小学校、ひがしなかの幼稚園）

②選定理由・役割

○ 北中野中学校区には区立かみさぎ幼稚園、中野東中学校区には区立ひがしなかの幼稚園があり、0～15歳の学びの連続性を確保した教育・保育の視点から、取組の推進が期待できる。

中野区コミュニティ・スクールのイメージ



地域学校運営協議会を設置する中学校区の各小中学校に、地域学校協働本部を設置する。

